

| | |
|-----|---|
| 区 | [開会] |
| 委員長 | 短い時間で多くの議題を議論する必要がある。多くの委員が発言できるようにご配慮いただきたい。 |
| 委員長 | 小委員会では、2回に渡って政策分野別に、2040年の望ましい姿と取組の方向性を議論する。基本構想策定支援シートを事前にご覧になっている前提で進める。基本構想策定支援シートや区民参画の結果を基にご意見いただきたい。特に、各分野のキーワードをいただきたい。 |
| 委員長 | 続いて、次第2「小委員会の進め方」について事務局より説明いただきたい。 |
| 区 | <p>資料1「小委員会の進め方」について説明する。</p> <p>本日から、2回開催する小委員会を通じて政策について審議いただく。3ページは第2回審議会において提示した、政策体系の事務局案である。第2回審議会での意見と小委員会での意見を踏まえ、第3回審議会にて修正案を示す。</p> <p>18ページの参考3は、第2回審議会で、「基本目標の概念図があると分かりやすい」との意見があったため、第2回審議会時点の基本目標の概念図について事務局案を記載している。</p> <p>都市インフラや防災・防犯の「安全安心で快適に暮らせるまち」が根底にあり、そのうえに多様な価値観が認められる、また産業や文化によるにぎわいなどの「まちの姿」があり、そのうえに一人ひとりが育つことのできる環境があるといった構図をイメージしている。なお、この概念図は今後の議論を踏まえて検討していく。</p> <p>本日「防災」や「環境」など6つの政策分野について審議いただく。「文化・芸術」や「産業」は次回4月20日に検討を行う予定である。</p> <p>5ページは小委員会の検討事項を記載している。小委員会では、区民参画結果や基本構想策定支援シートを参考に、各政策における「2040年の望ましい姿」「望ましい姿を達成するための方向性」等について検討いただく。</p> <p>6ページでは小委員会から第3回審議会にかけての流れを記載している。本日で4月20日の2回にわたり、小委員会において審議いただく。その後、意見の取りまとめを行い、委員長と内容を調整したうえで5月25日の第3回審議会において、小委員会での議論の結果を報告するとともに、基本構想の素案を示す。なお、本日で4月20日の小委員会終了後、1週間程度追加意見の期間を設定する。追加意見がある場合は、12ページの資料3「追加意見シート」を事務局ま</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>で提出いただきたい。</p> <p>7ページには、本日の会議の流れを記載している。</p> <p>各政策に関して検討する際に、 に記載のとおり、事務局から対象となる基本構想策定支援シートの概略を説明する。その後、 政策ごとの2040年の望ましい姿・政策の方向性について、意見をいただく。その後 意見をもとに、8ページに記載のワークシートの作成を行う。なお、2040年の望ましい姿等についてワークシートの内容で問題がないか、全体で確認いただく。その後、 基本目標（都市像）に盛り込むべき特に重要な事項について意見をいただき、基本目標の「安全安心で快適にらせるまち」の基本目標に盛り込むべきキーワードについて、意見をいただく。</p> <p>8ページは本日使用するワークシートである。</p> <p>2040年の望ましい姿については「2040年にどんな状態になっているか」についてのキーワードをいただく。意見のイメージは「～になっている」や「～が実現している」。また、望ましい姿を達成するために「どのような取組を行っていくか」についてキーワードをいただく。</p> <p>9ページは基本目標に関するワークシートである。</p> <p>前段の政策に関するワークシートの中で、基本目標に盛り込むべき重要なキーワードについて議論いただく。なお、皆様にいただいたご意見の基本構想への反映イメージは、配布している現行の基本構想の冊子を確認いただきたい。例えば現行の基本構想の10ページには、「防災・防犯のまちづくり」「利便性の高い都市基盤の整備」が政策名称、その下に記載のある文章が政策の方向性である。本日いただいた意見はこのようなイメージで基本構想に反映される。本日は率直な考えやキーワード等、ご発言いただきたい。</p> <p>なお、先般の第2回審議会および小委員会での議論を踏まえ、第3回審議会基本目標（都市像）および政策の修正案を提示する。</p> |
| 委員長 | <p>参考資料1に前回までの審議会での議論が記載されている。いただきたいキーワードの粒度は、同資料の基本目標 に記載されている「犯罪不安を減らす、迅速に対応できる」、「復旧復興ができる」という程度のものを期待している。個別具体的にすぎると基本構想に記載しにくい。</p> <p>各分野20分程度しか議論できない。事務局の説明の後、委員長から2名程度、各分野の専門性を考慮して指名して意見をいただき、それを基に議論していきたい。事務局は端的に説明いただきたい。</p> |
| 委員長 | <p>次第3「政策分野別の望ましい姿と方向性の検討」のうち(1)「防</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>災」について、事務局から説明いただきたい。</p> |
| 事務局 | <p>資料2「基本構想策定支援シートの『防災』」について説明する。</p> <p>基本構想策定支援シートのつくりは、表に現行計画における成果と実績、社会状況の変化と国・東京都の政策動向についてまとめている。裏面の上部では、区民ニーズ等の区の現状について整理しており、裏面の左下では、成果や社会経済の状況、区の現状を踏まえた現状の課題を整理している。裏面の右下に、本日皆さまにご審議いただきたい内容を記載している。記載内容は資料8ページのワークシートと同じである。</p> <p>それでは防災のシートに関してポイントを絞って説明する。</p> <p>本シートは、これまで取り組んできた施策「災害時の体制の強化」「防災基盤の整備」「災害に強いまちづくりの推進」について記載している。</p> <p>1の主な成果と実績では、「民間企業や他自治体との協定締結数」等、現行の基本計画期間である平成29年度から令和6年度時点の成果と実績を整理している。</p> <p>2の区を取り巻く社会動向について、社会状況の変化では、風水害の激甚化・高頻度化が進んでいること、能登半島地震などにより建物耐震化等の重要性が再認識されたこと等を記載している。国や都の動向は記載のとおり。</p> <p>裏面の3の区の現状について、令和6年の区政世論調査では「地震・水害等の防災対策」に力を入れてほしいとの回答が6割強を占めている。また、地域危険度調査において総合危険度が最も高い「ランク5」が13地区、「ランク4」が16地区存在していることなどを記載している。</p> <p>1～3を踏まえた課題は6つ記載している。災害が激甚化・頻発化している中、自助・共助・公助・互助の体制強化の必要性、災害対策本部機能の強化、地域防災力の向上、避難所環境の改善、帰宅困難者対応、また使用目的のない空家の解消も課題となっている。</p> <p>基本構想策定支援シート「防災」の説明は以上である。</p> |
| 委員長 | <p>あらかじめ指定した委員から発言いただきたい。</p> |
| 委員 | <p>地域防災計画も拝見し、策定支援シートを見ても、防災は頑張っている。不燃領域率も上がっている。輪島の地震を見ると粛々と進めるべき。気候変動に伴う水害の増加については気になる。人口は減少しても単独世帯数は増加する、老年人口の増加、外国人人口の増加、阪神淡路大震災においても外国人の死亡率は2倍であり、自助が</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>難しくなり、さらに共助も、公助も成り立たなくなる可能性がある。人口はいるので、コミュニティの強化が重要。また、空き家対策も防災上とても重要。また、薄いのが水害対策。2040年には水害対策の方が重要になると予想され、充実させる取り組みを記載いただきたい。</p> |
| 委員 | <p>日頃の活動から意見を述べる。</p> <p>第一に、火災の拡大の危険が大きい木造密集地域が解消されることが望ましい。密集については、再開発等で改善できなくとも、耐火化などはできる。また、耐震化工事もすることが望まれる。</p> <p>また、狭隘な道路が減り広い道路が増えることが望ましい。消防車の通行が可能になり、消化救助活動が容易になる。また、広い道路は、延焼拡大を遅延する、防ぐ効果もある。</p> <p>地域コミュニティが充実してほしい。地域防災力向上のために、防火防災訓練を現在は町会自治会中心に行っているが、構成員が増えれば、より多くの人に防火防災訓練を受けていただき地域の防災力を挙げることができる。また、お互いが顔見知りになり、災害時の連携も期待でき、共助の力が向上する。</p> |
| 委員長 | <p>他の委員にも意見いただきたい。</p> |
| 委員 | <p>一つの事例として、「汐入の暮らしと地域活動」として、3年前に大学の先生らと共に、南千住8丁目で調査を行った。4,500世帯、12,000人の町で、年間800万くらいの町会費と300万くらいの区の助成により運営している。汐入の生活環境と課題というところに、防災への取組がしっかりなされているという意見が80%以上挙げられている。</p> <p>能登半島地震の教訓もあり、発災時は行政が来ないという前提で地域の人が地域で守るしかないということがキーワードになっている。南千住8丁目は再開発事業で、1,100世帯が木造住宅だったのが、1件も木造住宅がなくなり、すべて集合住宅の、燃えない、倒れない街となった。すべてが集合住宅のため、町会の役割は、発災時に居住者が助け合うことである。コミュニティをどのようにしていくかということがあり、行政に頼らずにできることを各自が工夫するしかないと考えている。</p> |
| 委員 | <p>基本構想策定支援シートは、共通のことが多く登場してくる。コミュニティ、人と人のつながりは、産業などにも関連している。防災だけを切り取ってしまうと、基本構想全体としては成り立たないのではないか。防災においては、危機時に助け合える関係を日常の中に持てるかが大きい課題だと思った。知っている人がいる、知ってもらえている人がいる、声を掛け合える環境にあるというのが重要。</p> |

| | |
|-----|---|
| 委員長 | 共通部分については、審議会の中で大局的に整理していく。 |
| 委員 | コミュニティのことは重要である。日中に働いていて参加できない、区外で被災される方もいる。帰宅困難者が一時滞在する施設が重要になってくる。荒川区民以外も区内に滞在する必要性が生じる。区内のコミュニティに日常的に加わっていない人も被災時に区内にいる。区民の方が別の地域で被災された際に、地域の一時滞在施設の所在についても、分かりやすくなっていくと良い。コミュニティ、地域から外れている人についても、災害時について荒川区として対応していただきたい。 |
| 委員 | 発災後、被災後の復旧力、回復力にも着目いただきたい。 |
| 委員 | 防災という観点でひとくくりにするのも一つだが、自然災害には、風水害もあれば地震、火災など、すべてに共通して包含できるものもあれば、個々のケースごとに異なる対応が必要な部分もある。そこをどのようにまとめていくかということも考える必要がある。意見を出す際に、すべての災害に当てはまるものが望ましいか、個々の災害に当てはまる意見でも良いか。 |
| 委員長 | 地震や水害など様々な災害に対するレジリエンスがあることが望ましいということが、この場でいただきたい意見として受け止めた。 |
| 委員 | 2040年に向けてリスクの質、コミュニティの在り方が変わってくる。木造密集地域とタワーマンションのある地域とでは異なる。安全になったことで集まる意義がなくなってくる。集まる意義を見出す必要が生じてくる。また、コミュニティ外の人にも対応していく必要がある。そうした時代の変容に合わせていくことも重要になっていく。 |
| 委員長 | 追加の意見があれば、追加意見シートに記載しご提出いただきたい。 |
| 委員長 | 次第3「政策分野別の望ましい姿と方向性の検討」のうち(2)「防犯・区民生活の安全」について、事務局から説明いただきたい。 |
| 事務局 | 資料2「基本構想策定支援シートの『防犯・区民生活の安全』」について説明する。 本シートは現行施策「犯罪を許さないまちづくりの推進」「交通安全対策の推進」「消費生活の安全安心の確保」について記載している。 1の主な成果と実績では、「刑法犯認知件数」や「自転車関連事故件数」等、現行の基本計画期間である平成29年度から令和6年度時点の成果と実績を整理している。 2の区を取り巻く社会動向について、社会状況の変化では、刑法犯認知件数は、令和3年以降は3年連続で増加しているほか、特殊詐欺 |

| | |
|-----|---|
| | <p>の多様化や匿名・流動型犯罪グループ「トクリュウ」の脅威が増している。交通事故等について、令和6年の交通事故死者数は過去最悪であった昭和45年の6分の1以下に減少している。国や都の動向は記載のとおり。</p> <p>裏面の3の区の現状について、区内の刑法犯認知件数は、23区で3番目に少なく、令和3年度以降は3年連続で増加している状況である。犯罪種別は「自転車盗」が最も多い状況。また特殊詐欺の被害額は令和6年に過去最悪となった。荒川区の交通事故件数は直近10年、23区の中で一番少ない状況であるが、高齢者や自転車に関連する交通事故の割合が23区中ワースト1位である。</p> <p>1～3を踏まえた課題は4つ記載している。サイバー犯罪や闇バイト、SNS等を通じた犯罪等、新たな脅威への対応、またデジタル化の進展や商取引形態の多様化により、消費トラブルの多様化、複雑化しており、多角的な観点から被害抑止に向けて取り組む必要がある。交通安全に関しては、誰もが安心して移動できるよう、ソフト・ハードの両面からの対策強化が課題と認識している。</p> <p>基本構想策定支援シート「防犯・区民生活の安全」の説明は以上である。</p> |
| 委員長 | <p>あらかじめ指定した委員から発言いただきたい。</p> |
| 委員 | <p>防犯においても町会が関わる部分が多い。南千住8丁目は4,500世帯、12,000人という大きな規模の町会であるが、区内には規模が小さい町会も存在し、高齢化など運営に課題を抱えている。各町会は歴史も伝統もあり、統合や合併は簡単ではないが、隣接する町会をまとめていくなどして、各町会を1,500～2,000世帯以上としていかないと、町会が上手く機能しないと思われる。南千住8丁目では、防犯カメラが250台設置され、警察の捜査に貢献している。地域コミュニティの中核である町会の規模が一定以上になることは、防犯面においても重要と考える。</p> |
| 委員 | <p>区の担当部である区民生活部などにもヒアリングした。</p> <p>区の防犯の現状は、大きく3つの特徴がある。</p> <p>第一に、刑法犯の認知件数で自転車盗難が最も多いこと。</p> <p>第二に、特殊詐欺のような詐欺被害が、令和7年度については51件で被害額3億円となっている。以前であれば、被害者は高齢者が多かったが、最近はSNSを介した若者の被害が急増している。</p> <p>第三に、高齢者や自転車が関与した交通事故が多い。</p> <p>2040年の目指すべき姿としては、先々の犯罪の性質は予測が難しい</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>が、現状の犯罪を抑止するために、若者の犯罪被害を減少させること、若者が加害者となった犯罪を抑止するという、若者に対する犯罪抑止の行動が重要になってくるのではないか。また、高齢者や自転車の事故が多いということは、死角が多いと想像される。道路や建物の構造から、死角が生じて、事故が起きている可能性があり、まちづくりの観点からも、事故を起こさないまちづくりを進めていただきたい。</p> <p>自転車盗難について、今後も自転車が乗り物として発展していくのかは予想できないが、自転車に限らず、キックボードなど様々な乗り物を含めて事故を抑止する、事故が起こらない道路環境を整備することを目指す必要がある。</p> |
| 委員長 | 他の委員にも意見をいただきたい。 |
| 委員 | <p>防犯については、非常に恵まれている。空地や公園も多い。</p> <p>昔の南千住8丁目は、コミュニティが密な非常に良い町であった。他の町では、四苦八苦である。二階建ての住居が多く、町会長が力を入れている。3.11の際にガス管が止まった際にはレスキュー隊が対応した。</p> <p>隣の町会では、6～8人くらいで、町会の成り手がない。昼は働いており、夜の会合には出てこない。コミュニケーションが取れない。いくつかの町会が一緒になるというのは、良い考えである。</p> |
| 委員 | 2040年に向けてということでは、デジタル化が進まざるを得ない。また、情報弱者が苦しい時代になっていくように思われる。人と人のつながりという観点で言うと、孤立や情報弱者を生まない地域をどのようにつくれるかということを考える必要がある。 |
| 委員 | 自転車の通行空間が不足しているというのは、自転車の専用通行帯がないという趣旨か。 |
| 事務局 | その通りである。 |
| 委員 | 荒川区は自転車を製造していたりして、少し前までは自転車のまちと言われていた。自転車活用総合推進計画を策定し、二酸化炭素の排出がないこともあり、積極的に取り組んでいた。4月から青切符が始まる。狭い道路の中で、青いラインが少し入っているだけという状況を改善していく必要がある。安心して移動できるようにしていく必要がある。 |
| 委員長 | 共通のキーワードについては、今後の整理の中でまとめていきたい。 |
| 委員長 | 次第3「政策分野別の望ましい姿と方向性の検討」のうち(3)「都市基盤」について、事務局から説明いただきたい。 |

| | |
|-----|---|
| 事務局 | <p>資料2「基本構想策定支援シートの『都市基盤』」について説明する。本シートは「バリアフリーの推進」「生活道路、都市計画道路の整備」「交通環境の整備」「快適な市街地環境・再開発事業等」について記載している。</p> <p>1の主な成果と実績では、「バリアフリーマップの作成」や「無電柱化の延長」等、現行の基本計画期間である平成29年度から令和6年度時点の成果と実績を整理している。</p> <p>2の区を取り巻く社会動向について、社会状況の変化では、能登半島地震や全国で激甚化、頻発化する豪雨被害など、災害時におけるライフラインの確保、延焼遮断帯の形成、避難・緊急輸送道路等の防災機能の重要性が再評価されている。また新型コロナウイルス感染症を契機に、ゆとりある屋外空間や徒歩等で回遊できる空間のニーズが高まっており、道路空間についても、賑わいや憩いの場を創出するような取組が展開されているほか、埼玉県八潮市の道路陥没事故を受け、インフラ施設の老朽化への関心が高まっている。国や都の動向は記載のとおり。</p> <p>裏面の3の区の現状について、区政世論調査における「重要なまちづくりの課題」として、「建物の不燃化などの防災まちづくり」が33.5%といった結果である。また三河島北地区は旧真土小跡地を含め、低・未利用地が多く、西日暮里地区では交通結節点でありながら、駅前の都市整備が十分に行われていないほか、駅前のにぎわいが不足している状況である。なお、三河島駅北地区、西日暮里駅前地区は現在再開発計画が進行中である。</p> <p>1～3を踏まえた課題は4つ記載している。災害リスクの高まりや道路の老朽化に対応しつつ、歩行者・自転車・車のほか新たなモビリティ利用者の誰もが安全・安心に利用できる良好かつ快適な道路環境の整備や、地域公共交通の体制構築、快適な居住空間の維持とともに区のにぎわいを創出するなどバランスの良い適切な誘導等が課題となっている。</p> <p>基本構想策定支援シート「都市基盤」の説明は以上である。</p> |
| 委員長 | あらかじめ指定した委員から発言いただきたい |
| 委員 | <p>キーワードをお示しし、そのキーワードに紐づいた望ましい姿、目指す姿を申し上げる。</p> <p>災害リスク対応が一つ挙げられる。道路の老朽化、移動空間の安全安心・快適性、持続可能な地域公共交通、快適な居住空間、賑わいの創出がシートに挙げられている。</p> |

| | |
|----|---|
| | <p>円滑な避難、安全・安心な道路環境が整っているまち。高齢者や高密度居住地区の地域公共交通が整っている町。汐入地区は高密度居住空間であり、雨の日のバスに乗れないなどという課題がある。そうした部分に対しても対応していく必要がある。</p> <p>快適な居住空間と賑わい空間が適材適所で形成されている。両者のコンフリクトを避ける。</p> <p>円滑かつ利便性の高い移動空間、駐輪場が整っているまち。移動空間のシームレスなつながり、自転車のニーズは多いが駐輪場が不足している。駅の最寄りに駐輪場があれば、移動のつながりが円滑になる。</p> <p>木密地域に置いて安全安心なハード整備とソフト対策が整っている町、荒川の特徴を最も表している。</p> <p>低未利用地であった場所が有効に活用されているまち。低未利用地がいくつかの地区で顕在化している。限られた土地の中で低未利用地はもったいない。高齢者から若者世代の居場所になるように。具体的な政策は、達成するための取組の方に回したい。</p> <p>再開発地域において良好な住環境と賑わいが形成されているまち。どのように賑わいをつくりだし、良好な住環境につなげていくか。いきなり積み上げてきた歴史を無視するのではなく、新住民と既存住民のコミュニティをどのように育むかということにも関連する。</p> <p>根本は、荒川区らしさをどう基本構想の中で宣言していくかということにある。荒川区らしさが適材適所で演出され、地域住民の誇りと愛着が醸成されているまち。これにこれまで申し上げことが紐づいていくと、地域性ができていく。</p> |
| 委員 | <p>バリアフリーについて、全力で整備していくことが必要である。道路整備について、基盤未整備の場所が多いということだが、これまでは6 m以上の道路幅員を目指していたが、最近では火災に強い街であれば4 mあれば自動車の速度が遅くなりウォークャブルになるので問題ないと議論されている。場所によって、健康や文化、にぎわいを基盤とした整備もありえる。時代に合わせて、メリハリをつけた基盤整備が望ましい。</p> <p>公共交通は充実していると思われるがコミュニティバスにするか、デマンド交通にするかは悩ましい。自動運転もある程度実用化されていると考えると、対象を絞った対策となる可能性がある。利便性が著しく低い住民への対策にかじを切る必要がある。</p> <p>パリの15分都市が流行っているが、荒川区に置いて、交通利便性が低い人がそれなりに移動できる街を目指すのが良い。</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>インフラの老朽化は、建設資材の高騰が続くと、市街地向心力が落ち、マンションが建たない状況もあり得る。建物ストックの長寿命化にかじを切る必要がある一方で、アフォーバブル住宅のような、住宅を確保できない人への対応も必要である。</p> <p>木密は危険であるが文化でもあり、全てなくすのは検討の余地がある。感震ブレーカーなどが完全に整備された超安全な荒川区を目指すのもあり得る。</p> |
| 委員 | ユニバーサルデザインという言葉も入れていただきたい。 |
| 委員長 | <p>区では、インクルーシブなどの表現も用いている。</p> <p>コミュニティバスの利用者が減っていることは気になる。</p> |
| 委員長 | 次第3「政策分野別の望ましい姿と方向性の検討」のうち(4)「住環境」について、事務局から説明いただきたい。 |
| 事務局 | <p>資料2「基本構想策定支援シートの『住環境』」について説明する。</p> <p>本シートは現行施策「高齢者の住まいの確保」「快適な居住環境の形成」について記載している。</p> <p>1の主な成果と実績では、「特別養護老人ホーム入所待機者数」や「住みよいと感じる人の割合」等、現行の基本計画期間である平成29年度から令和6年度時点の成果と実績を整理している。</p> <p>2の区を取り巻く社会動向について、社会状況の変化として、近年では高齢者が自ら住まいを選択し、要介護度や住環境の変化に応じてサービスを柔軟に組み合わせる「地域包括ケアシステム」が推奨されている。また、建物と居住者の「2つの老い」の進行により管理不全や未再生のマンションの増加が懸念されているほか、建築資材や人件費の高騰等により、分譲マンション等の価格が高騰している状況である。国や都の動向は記載のとおり。</p> <p>裏面の3の区の現状について、10年前と比較し、特別養護老人ホームの待機者が半数以下に減少している。また現状区民の6～7割がマンションに居住しており、マンションは重要な居住形態となっている。マンション実態調査によると、区内のマンションはバブル期に建設されたものが多く、居住者も中高年が7割近くを占め、全国的な課題でもある「2つの老い」が健在化している状況である。</p> <p>1～3を踏まえた課題は4つ記載している。今後、高齢化のさらなる進行により、人手不足が顕在化する中での受け入れ態勢の改善、支援の充実や、マンションの「2つの老い」が、さらに進行し、マンション維持・管理に重要な体制の脆弱化への対応や激甚化・頻発化する自然災害への対応、地域コミュニティの希薄化からあらゆる世代が気</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>楽に集える場所が求められている点など、課題としてあげている。 基本構想策定支援シート「住環境」の説明は以上である。</p> |
| 委員長 | <p>あらかじめ指定した委員から発言いただきたい</p> |
| 委員 | <p>所属している団体が、公共工事も多数担っている。住環境の背景として、隅田川沿いには、尾久が原公園や汐入公園など大型の公園が整備されており、荒川区も区内の小規模な公園を整備している。隅田川沿いでは、宮前公園の整備が進んでおり、町屋や南千住でも公園の整備が進む予定である。</p> <p>災害におけるスーパー堤防とも関係してくる。</p> <p>読書の町として中央図書館の整備から始まった図書館整備も進んでいる。</p> <p>集会施設のふれあい館として、20館への集約が進んでいる。</p> <p>整備が進んだ先には、若年層から高齢者までの多世代が気軽に安らぎを感じ過ごせる快適な生活環境が整っていくものと考えている。</p> <p>一般論として、建物の資産価値を維持、老朽化対策をしていく際には、管理組合や管理会社が長期的な計画の下で対応していくものと考えている。対応していくなかでは、担い手不足、人件費や建築資材費の高騰、働き方改革などの課題がある。</p> |
| 委員 | <p>キーワードとして、区民の高齢化、マンションの老朽化、二つの老い、コミュニティの希薄化、遊び場の減少、あらゆる世代が集える場の必要性が挙げられる。</p> <p>2040年の望ましい姿・目指す姿として、高齢者やその家族が安心して住み続けられる住まいが確保されているまち。老朽マンションの安全対策が進んでいるまち。分譲と賃貸で扱いが異なるため、別に考えていく必要がある。</p> <p>マンション内の住民コミュニティをどう育むか。特に賃貸はマンションに根付いている住民が少なく、工夫が必要である。</p> <p>また、地域的に広がりのある街中でのコミュニティをどのように育むか。新たな開発地では既存住民と新住民のコミュニティが希薄になりがちなので、その両者の間でのコミュニティをどのように育むか。荒川では町会が重要と考える。6月に神輿が多くあがっているのは、町会の力が大きいと思われる。</p> <p>自然災害に対する避難方策が根付いているまち。垂直避難と在宅避難を、どのように住民に定着させるか、啓発が必要である。</p> <p>子どもの遊び場が適材適所に確保されているまち。都市公園というよりも、法の縛りを超えてフレキシブルに子どもたちが使える公園が</p> |

| | |
|----|--|
| | <p>求められていくのではないか。</p> <p>多様な世代の居場所が適材適所で確保されているまち。子どもからお年寄りまでが集える場所、ゆいの森が象徴的だが、そのような場所を増やしていく。</p> <p>荒川区らしさが適材適所で演出され、地域住民の荒川への誇りと愛着が醸成されている町、これに紐づけて検討していただきたい。</p> |
| 委員 | <p>景観を大事にしていきたい。</p> |
| 委員 | <p>昨年、特別区の区議会議員向けの研修会にて、中年単独世帯が増加しており、いずれ高齢化することで独居老人が増加することが懸念されているという話があった。若者から高齢者まで多世代が安心して暮らせるというのが、コーポラティブハウスのようなものを想像しているのか。単に高齢者が増えるだけでなく、独居の高齢者が増えるなかで、そうした人が地域のコミュニティともかかわりが増えるように、コーポラティブハウスなど、街づくりの中で取り組んでいただきたい。</p> |
| 委員 | <p>人口推計報告書にて、単独世帯の増加予想が書かれている。この後2040年の段階でどのような世帯構成になっているかも重視する必要がある。現在、一般的に言われているのは、家賃が高騰し、子どもや孫が住み続けられるのかという不安を抱えている人がいる。近くに住んでいきたいが、土地が高くて買えないなど。子どもや孫も住み続けられる街、障がいを持っていても住みやすい住宅を確保できるような支援が自治体として必要になってくると考えている。</p> <p>女性は比較的コミュニケーションを取る傾向にあるが、男性、特に単身者は地域とのつながりが希薄になるという傾向にある。退職後に地域とのつながりを持てるように考えていく必要がある。</p> |
| 委員 | <p>ごみ捨てと、町会費の問題がある。大きなマンションだと、組合で管理している。小さなマンションでは、町会費を払わなかったり、ゴミの出し方がいい加減などで問題になっている。そうしたところについて、規制を決めておいていただけるとありがたい。</p> |
| 委員 | <p>二つの老いの話があったが、荒川区で再開発が行われており将来的にタワーマンションが増えていくということで進んでいるが、投機目的の購入を心配している。投機目的の購入者は居住しないため、マンションの維持管理の合意形成が難しくなってくるのが懸念され、支援が必要である。</p> |
| 委員 | <p>都市基盤と住環境に共通して、「荒川区らしさが適材適所に演出され、地域住民の荒川区への誇りと愛着が醸成されているまち」と申し</p> |

| | |
|-----|---|
| | <p>上げている。荒川区らしさを適材適所で演出するというのが景観に関連するところになる。都市基盤は設計整備が入ってくるが、そこで地域特性や下町風情を活かした、景観整備の内部目的化が当たり前のようにコンセプトに入るようにということを提案したい。</p> <p>住環境に関しては、地域の特性や下町風情を活かした景観街づくりの推進ということで、地域住民と区が連携して、荒川区らしさを啓発するような景観まちづくりを提案していきたい。景観まちづくり塾では、防災景観というキーワードを打ち出した。防災は日常で目に入るものが一番の情報であり、防災にちなんだ景観を荒川区全体で全て抜き出し、子どもから大人まで楽しめるように防災景観カルタを作成した。今後も荒川区の街歩きマップの中に一時避難所や AED の場所などを取り入れるなどした。日常の楽しみの中から防災知識がインプットできるよう、日常の豊かさと災害への備えが荒川区での大きなキーワードではないかと考えており、引き続き景観まちづくり塾は推進していきたい。</p> |
| 委員長 | <p>次第3「政策分野別の望ましい姿と方向性の検討」のうち(4)「環境・みどり」について、事務局から説明いただきたい。</p> |
| 事務局 | <p>資料2「基本構想策定支援シートの『環境・みどり』」について説明する。</p> <p>本シートは現行施策の「温暖化対策の推進」「循環型社会の形成やごみの適正処理の推進」「みどりと潤い豊かな生活環境づくり」について記載している。</p> <p>1の主な成果と実績では、「区全体のエネルギー消費量」「区民1人1日当たりの総ごみ量」「公園・児童園面積」等、現行の基本計画期間である平成29年度から令和6年度時点の成果と実績を整理している。</p> <p>2の区を取り巻く社会動向について、社会状況の変化では、平成27年に世界の平均気温の上昇を抑えること等を目的としたパリ協定が採択された。また風水害や将来的な気温上昇など、都市公園には将来の課題を解決するためのグリーンインフラとしての役割が求められているほか、コミュニティ醸成の場所・子どもの居場所として注目されている。</p> <p>裏面の3の区の現状について、令和6年度末における「区民一人当たりの公園面積」は緑の基本目標での目標値を下回っている状況である。廃食油等、これまで廃棄されてきたものを資源化する取組を行ってきた。また区民1人1日当たりの総ごみ量は減少傾向で推移してい</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>る。</p> <p>1～3を踏まえた課題は3つ記載している。家庭部門の省エネルギー化、外国人人口の増加に伴い、文化・ルールの違いによる問題、みどりに関しては、区民の居場所や災害時の拠点等、区民生活において重要な役割をもつ公園の整備等の体制づくりが課題となっている。</p> <p>基本構想策定支援シート「環境・みどり」の説明は以上である。</p> |
| 事務局 | <p>本日欠席の委員からは、リチウムイオン電池の回収について、町会の強力が必要であるという意見をいただいた。</p> |
| 委員長 | <p>2040年の望ましい姿、目指す姿は、大きなキーワードは、3つと、さらに1つ追加である。「カーボンニュートラル」「サーキュラーエコノミー」「ネイチャーポジティブ」それに、最近はウェルビーイングも加わってきている。こういう考え方を、いかに荒川区なりに定着させるかが重要と考える。カーボンニュートラルについては、これまで区では家庭への対策を重視してきたと思われるが、個人的にはそれで良いと考える。一区民・企業として、無理なく取り組める話が定着していることが望ましい。</p> <p>サーキュラーエコノミーについては、東京都内ではポイ捨てや観光客、ポイ捨て・不法投棄について、なくしていくことが必要である。綺麗なまちにするという原点に戻った方が良い。その際には、区民力、個人にどの程度定着させられるかが問題になる。</p> <p>東京都は、埋め立て処分場がなくなりそう、焼却炉を建設するコストが増大し、有料化の話も出てきている。出すゴミの量を減らしていかなければ立ちいかなくなる。地域全体で持続可能にするための、消費者としての行動が定着していることが求められる。</p> <p>公園や緑については、景観とつなげて、自然系が一番最初に影響が出るセンサーという表現をすることがあるが、従来のマインドを育てていくということで良いのではないか。</p> <p>大久保委員からあったリチウムイオン電池については、リチウムイオン電池が原因の火災が頻発している。国のルールが変わってきているというのもあるが、区民側も行政側・民間側もそれぞれ安心して住める・取り組めるようにする必要がある。</p> |
| 委員 | <p>緑化に関するキーワードを追加いただきたい。以前、森ビル社長から日本は平面過密、構想過疎だという意見を伺った。荒川区も同様とを感じる。荒川自然公園で下水処理場の上に人工地盤をつくり公園を整備したように、発送を変えれば緑地を増やしていくことはできる。壁面緑化など。工夫して、緑地を増やすことに取り組んでいただきたい。</p> |

| | |
|-----|---|
| 委員 | 脱炭素などは複雑で住民の人にはピンと来ないと思われる。人の暮らしやすさという観点で伝えていくことが必要ではないか。 |
| 委員長 | 対策の種類は様々ある。断熱性能が重要と考えているが、そうするとエネルギーコストの低下だけでなく健康面でもメリットがある。他の施策と組み合わせながら提示していくのが良いというのは同感である。 |
| 委員長 | 次第3「政策分野別の望ましい姿と方向性の検討」のうち(5)「財政運営・DX」について、事務局から説明いただきたい。 |
| 事務局 | <p>資料2「基本構想策定支援シートの『行政運営・DX』について説明する。</p> <p>本シートは現行施策の「戦略的な行政運営」や「健全な財政運営」「職員育成の充実」「DX等による窓口サービスの充実」等について記載している。</p> <p>1の主な成果と実績では、「区政に関心がある区民の割合」「キャッシュレス化率」等、現行の基本計画期間である平成29年度から令和6年度時点の成果と実績を整理した。</p> <p>2の区を取り巻く社会動向について、社会状況の変化では、人口減少や少子高齢化による歳入の減少等により全国の自治体の財政を圧迫しており、消滅可能性都市という言葉が生まれた。また根拠に基づく政策立案(EBPM)の推進により、実行性・柔軟性の高い行政運営が求められている。DXに関しては、AI等の技術進展に伴い、自治体DXの動きが活性化し、全国的に行政手続きのオンライン化等による区民サービスの質の向上や職員業務の負担の軽減などが進んでいる状況である。</p> <p>裏面の3の区の現状について、令和7年6月時点の行政手続きのオンライン化率は7%程度となっている。世論調査における「行政手続きのオンライン化により期待すること」の設問に対し「夜間・休日を問わずに窓口に行かずに手続きができること」が最も多く、57.9%だった。外国人来庁者への対応として、タブレット端末の通訳アプリ等の活用によりスムーズに案内ができていく状況である。</p> <p>1～3を踏まえた課題は5つ記載している。多様化、複雑化する社会において行政経営の高度化や効率化を一層図ること、人口減少、少子高齢化等に伴う、職員の人材確保や人材育成、また、公共施設の老朽化への対応、行政サービスの効率化・質の向上に向けたより一層のデジタル技術の活用などが課題となっている。</p> <p>基本構想策定支援シート「行政運営・DX」の説明は以上である。</p> |

| | |
|-----|---|
| 委員長 | あらかじめ指定した委員から発言いただきたい |
| 委員 | <p>役所の人事・組織、行政運営が専門である。立派な計画があっても、実行する役所組織がしっかりしていなければ絵に描いた餅となる。役所はこれまでスリム化を進めていたが、限界に来ており、いかに質の高い職員を確保するかが問題である。DXを推進して部門を縮小することも重要だが、対住民対応で職員が担う必要のある部分が多くあることから、職員の確保と育成が必要となる。</p> <p>多くの職員が昇任試験を受けたがらないという状況もある。一人一人の職員のパフォーマンスの最大化のために、人材マネジメントを徹底して、職員の育成・確保を図る必要がある。</p> <p>意欲ある女性職員の活躍を支援することについても言及した方がよい。また、住民の理解も重要である。他自治体での地域住民へのアンケートにて、役所の人員の多寡を聞くと、減らした方がよいと考える人が2割以上いた。施策を進めるうえでは、住民の理解が重要であり、区政に関心がある区民の割合について、4割は関心がない。区政について知っていただき、必要性を理解いただくことが重要である。</p> <p>区政に関心がない人は、恩恵を受けていないので、他自治体にふるさと納税するということもある。シビックプライドを持つ住民の数にも影響してくる。興味のない人をどのように引き込むか、プッシュ型で提供する必要がある。</p> |
| 委員 | <p>DXについて、デジタル化よりもトランスフォーメーションの方が重要と考える。工数がどれだけ減り、減った負担の分、区民に還元されることが重要である。区民サービスのスピードの向上、区民のQOLがどれだけ上がったかというのが重要である。</p> <p>民間と異なり、予算が直接売上につながるというような把握の仕方が難しい。かけた予算が誰の何になったのかを定量的に把握でき、成果が区民に見えるような行政運営をしていただきたい。</p> |
| 委員長 | QOLは入れた方がよいと考える。 |
| 委員 | <p>重要であるとともに、行政の苦勞を民間に知っていただく努力も必要と感じた。DXという際のデジタル化は必須事項と考える。どれだけ工数を削減できるかは、必須の条件であり、AIも発展していく中で、費用はかかり、半分の人は一人暮らし、二つの老いなど、すべてがDXに関わってくる。DXと、人と向き合うこととの両立についてどう考えていくか。</p> <p>住民の立場から考えると、どこが横串かが分からなかった。</p> <p>様々な目標を掲げられると思うが、すべてに関心があるのではな</p> |

| | |
|-----|---|
| | <p>く、情報を共有できているところから始まっていかないと、行政の苦勞を理解できない。DXが横串の比較というのが、人と人のつながりという大きなテーマで考えたときに、そこを横断するものがない</p> <p>それがDXの隠れたところと考えた。</p> <p>持続可能に地域を支える仕組みを変えられるかという課題になる。</p> |
| 委員 | <p>DXは他の項目と異なり。目標や目的ではない。2040年のあるべき姿を示していく中で、横軸としてDXを捉えるのは違うのではないか。2040年にまだDXという言葉が使われているのかという疑問もある。</p> |
| 事務局 | <p>基本構想に落とす際には、将来像の実現に向けた区取組として、行財政運営の推進を置いている。議論においては他の政策と並べているが、基本構想の中では、他の政策の前段として示すことを想定している。</p> |
| 委員 | <p>申請主義の原則が貫かれ、権利は自ら主張すべきという立場かと思うが。本来受けられる支援が受けられなかったという人も出ている。最近では給付金などプッシュ型の事業もあり、行政側の能動性も必要になってくると考える。人材が不足しており、専門的なスキルを持つ職員も不足、現在の仕事を動かすだけで精いっぱいという状況もあるかと想像されるが、予算特別委員会に置いても同規模自治体よりも少ない職員数であるという答弁があった。職員が一定の余裕とやりがいを持って仕事できることが重要である。20ページの表にて、昇任の選考受験者数があるが、受験者が減少している。区の職員の仕事のやりがいを高めていく、人を大切にしていこうということも視点に入れていくべきである。</p> |
| 委員 | <p>2040年頃は公共施設の建て替えのピークや、大きな建て替えが終わり基金が減少するなど、財政面での課題が問われる時期となる。区役所の建て替えや学校の建て替えが今後続いていくという計画があるので、健全な財政運営、財政の健全化というワードも入れていただきたい。</p> |
| 委員 | <p>DXは、業務効率化のために行われ、ともすれば人員削減につながる。しかし、区民と関わるということ、災害時の対応も考えると、人員を減らさず、職員の職務環境を改善するDXとしていただきたい。本当は給料を上げた方が良いが。</p> |
| 委員長 | <p>全体を通して意見はあるか。追加意見については、書面でいただきたい。</p> |
| 事務局 | <p>次回は異なるテーマで実施する。</p> |
| 委員 | <p>全体の共通項については、どのように扱われるか。</p> |

| | |
|-----|--|
| 事務局 | <p>第2回審議会での意見を踏まえ、先に政策など小さなところから議論を始め、次に都市像など大きなところに進んでいく。次回は、これまでの期ワードからピックアップしていけるところもある。</p> <p>第3回審議会では、都市像や将来像について、現行の基本構想の草案をお示ししたいと考えている。</p> |
| 委員長 | <p>続いて、次第4「今後のスケジュール」について事務局より説明いただきたい。</p> |
| 区 | <p>資料4「審議会開催スケジュール」について説明する。</p> <p>第2回審議会で説明した内容から、一番右の「議題」の部分を少し詳しく記載している。次回も引き続き小委員会で本日と同様、政策分野の2040年の望ましい姿についてキーワードをいただく。次回の小委員会は4月20日(月)である。</p> <p>5月25日(月)に第3回審議会を開催し、小委員会での審議結果の報告と基本構想の草案についてご検討いただく予定である。</p> <p>6月29日(月)の第4回審議会では、第3回審議会での議論を踏まえ、基本構想の答申案を検討し、決定する。</p> <p>最終回の7月29日(月)の第5回基本構想審議会では、審議会会長より区長に対して答申をいただく予定である。</p> |
| 委員長 | <p>資料4について質問・意見をいただきたい。</p> <p>ご質問がないため、資料4の通りに進める。</p> |
| 委員 | <p>望ましい姿・目指す姿と、望ましい姿・目指す姿を達成する取組とあるが、下の方については、審議会で議論するか。</p> |
| 事務局 | <p>その通りである。</p> |
| 委員 | <p>4/20の検討項目が、「防災・防犯、環境、産業、文化・芸術、まちづくり、区政運営」となっているが、本日の議論項目以外のテーマを検討する形か。次第や資料のテーマと所掌するテーマの表現が異なるようだが。</p> |
| 事務局 | <p>第一小委員会の議論対象について記載している。</p> <p>都市基盤や住環境など表現について、一貫していない部分があったので今後統一したい。</p> <p>記載分野のうち、半分を本日実施し、残りの半分を次回実施する予定である。</p> |
| 委員 | <p>望ましいしか触れていないが、取組についての意見は追加の意見で提示すれば良いか。</p> |
| 事務局 | <p>取組についても本日意見をいただいたところは取り入れ、追加意見シートも活用いただきたい。</p> |

| | |
|-----|--|
| 委員 | <p>取組は重要と考える。目指す姿が決まって、取組を議論する流れかと思うが、どうか。</p> |
| 事務局 | <p>本日、望ましい姿・目指す姿については、多数キーワードを頂いた。それを踏まえた取組については、委員の意見を踏まえて事務局で取りまとめる。次回の審議については、別の分野について議論する。メールでのやり取りを通して議論したい。</p> <p>本日の中で、 と を混在したような議論を頂いた。本日の意見の中で、議論を踏まえて整理したい。</p> <p>本日の議論全体を踏まえて追加したい意見があれば、ご提出いただければ、追加意見として取りまとめたい。</p> |
| 委員長 | <p>最後に事務局より事務連絡があれば、お伝えいただきたい。</p> |
| 事務局 | <p>追加のご意見は、資料3の追加意見シートを事務局にメールでご提出いただきたい。様式は本会終了後、事務局より送付する。次回小委員会では、4月20日(月)18時30分より、荒川区役所5階大会議室にて、「文化・芸術」「産業」「地域のにぎわい」「区民参画・協働・シティプロモーション」の4分野について議論いただく。</p> <p>区民参画結果等の参考資料は、次回小委員会の際改めて配布する。</p> |
| 区 | <p>[閉会]</p> |